

アート作品をたどりながら山口のまちを巡る

# YAMAGUCHI ART PICNIC

やまぐちアートピクニック

2022.11.30-12.4

## 生活の便り

- 山口とスイス・スクオールの間で考える社会課題とアートの有用性の研究 -

鈴木啓二郎

Mitsuko(大谷美津子), オカダエミ, 清水暢子, しみずひろみ, 佐藤亜希子, 田辺哲也,  
西村延啓, みうらちえこ

---

「生活の便り」は、やまぐちアートコミュニケータープログラム 架空の学校「アルスコール」に参加するアートを通じたコミュニケーションや学びを深める参加者（アート・エドゥケーター）とスイス・スクオールで滞在制作を進める第10回やまぐち新進アーティスト大賞受賞作家である鈴木啓二郎による共同制作企画展です。

2022年10月頃より約2ヶ月に渡り、合計4回のオンライン講座を通して、鈴木氏の滞在先であるスクオールでのリサーチやこれまでの活動を参照しながら、「山口とスイス・スクオールの間で考える社会課題とアートの有用性」をテーマに、各参加者はそれぞれの感性、解釈、創造、編集、解説、展示、コミュニケーションなどを駆使し、独自の作品やプロジェクトを会場であるLOCUSにて成果発表しています。

スイス・スクオールは、アルプス山々に囲まれミネラルの豊富な湧水を活用したヨーロッパ屈指の保養地であるとともに、スイスでは日本にも共通する自殺率の高さが顕著に見られるとのことで、豊かな自然資源や生活水準の高さを誇りながらも直面している社会的、精神的、心理的な課題は、日本や山口にも共通する課題であり、その課題に対するアートの有用性やその活用を探究することは、とても意義深いものと考えられます。

「生活の便り」は、鈴木氏の便りをもとに各参加者（アート・エドゥケーター）がそれぞれにテーマを設定し、作品と鑑賞者の間で交わされるコミュニケーションや体験、また、それらを取り巻く背景や文脈を効果的に掘り下げる会場構成やキャプションなどの仕組みを多様に試行錯誤して展示されています。

ぜひ、ご高覧いただき、作品や制作秘話など、各参加者（アーティスト）とお話を深めてみてください。

## ある話

### Mitsuko(大谷美津子)

誰かが話すとりとめのない自分の話。話し手と向かい合ってその話をじっくり聴くことは、その人自身を鑑賞することのように思え、興味深い。

一方、語り手のほうはどうだろうか。

私には、愚痴を誰かに聞いてもらっただけで何となく気がすんだ経験、迷いや悩みを誰かに話しているうちに自分から解決できた経験などがある。

また、話を人に聞いてもらうことで精神的に良い影響があると聞いたこともある。

それなら、私が誰かの話を聞いてみよう。

私はその人の話を「鑑賞」しながら、その人の何かを癒すことができるだろうか。

とりあえず、自分より人生経験の豊かな方々の話に、ただ耳を傾けてみようと思った。

さて、お話をしてくださった方々には、その体験はどう影響するのだろうか。

自己紹介：美術や音楽などの鑑賞とモノ作りが好きで、おいしいものと楽しいことが大好きです！

## 龍柏(ロンバイ)

久しぶりに訪れた中原中也記念館の

入口に立派に剪定された樹があった。

樹齢100年を超えるカイツカイブキだった。

ふと、真下から見上げた時、その姿にハッと

息をのんだ。命をつなげ生きている、

そのすさまじいほどの力強さ。そして枝分かれした

その先にそれぞれのストーリーをも感じた。

「この時はねえ、こんなことがあったよ」

そんな声が聞こえて来た。

## 社会彫刻

昨年、ドイツの芸術家ヨーゼフ・ボイスの事を知った。そしてこの言葉を知った。

人生のあらゆる局面には創造的なアプローチができ、それによって誰もが社会全体の幸福に寄与できるという考え方。

「誰でも未来に向けて社会に彫刻しうるし、しなければならない」

特別な誰かなく全ての人が彫刻家だとすると、自分は・・・

## 空想

小さな頃に読んだ本の世界、空想の世界は

いつでもあなたのそばにあるよ

今のあなたの目の前にあるものが世界の

全てじゃないよ

空想してみて

いつでも仲間たちは、あなたを待っている

## オカダエミ

今回、鈴木啓二郎さんのスイスでのお話を聞き、作品を作るうえでテーマは「生きる」としました。作品を通じて、鑑賞者の方に、何か心に留めていただくことが出来ればと思っております。

自己紹介：山口市在住 会社員

## 視点の差異 / Unterschied in der Perspektive

しみずひろみ、清水暢子 [Studio UZU -since 2000- ]

テーマ

ー日本・山口市とスイス・スクオールの差異

ー自己/他者の視点の差異

ーやまぐち歴による解像度の変化

ー興味の対象による視点の差異

様々な「やまぐち歴」を持つ皆さんが撮影された写真を比較することで、同じ都市で過ごした履歴などによって、「視点の差異」が生まれて来るのか/来ないのか、またそれはどこから生まれてくるのでしょうか。

展示現場では、写真に加え、山口市内でフィールドレコーディングした音を流しています。ここにも、山口らしい「音」というものがあるのか／ないのか、またそれはどうしてなのでしょう。これらについて、一緒に考えを巡らせてみましょう。

自己紹介：アート好きやまぐち好きの夫婦です。アートコミュニケーター2年目、まだまだわからないことだらけですが、鑑賞者の皆さんと一緒に楽しい空間を作っていきたいと思っています。

## 逃げ道は多いほうがいい

佐藤亜希子

スイス・日本共通の社会課題「生きづらさを抱える人々」と「アートの有用性」を考え、心理学のストレスコーピングの手法をモチーフに作品にしました。

自己紹介：山口県内のどこか在住。マイペースでゆるりと生きてます。

## Ach wie flüchtig, ach wie wichtig

ああ、いかに儂き、ああ、いかに虚しき

## Lacrimosa

涙の日よ

田辺哲也（やまぐちのてっちゃん）

スクオールと山口、ひいてはスイスと日本を比較した際、鈴木啓二郎さんから伺ったお話で驚いたことは、スイスの方が自殺率が高いとことが挙げられます。

そういえば、スイスは数少ない安楽死を法的に認定している国で、あのジャン・リュック・ゴダールもスイスにおいて自死への道を選んだのも記憶に新しいです。その社会的問題もちろん考察し

なくてはならないのですが、もっとベーシックな人文知の領域をもって両者の死生観について思いを馳せてみると、まず狩猟文化と農耕文化の違い、西洋キリスト教思想と東洋仏教・老荘思想をエートス（根本思想）とする背景に大きな差異があることを踏まえ、死はイエスの贖罪による魂の復活であることの西欧思想と、いわゆるポイド＝虚無で無常感が支配する東洋思想から考えて、スイスははじめ北欧も含め高福祉国家であるはずの西欧諸国で自殺率が高い事実はここに立ち返ってみるとある意味理解できるのではと思われました。

しかし、私が愛聴しているバッハが、キリスト教神学と新約聖書をベースにして書かれた 200 曲ある教会カンタータのなかで、あたかも東洋の無常観をうたったような 1 曲があるのに注目しました。バロック期には美術の領域でも、memento mori(死を想え) や、虚無を説いたヴァニタス思想を盛り込んだ静物画が好んで描かれている事実もあり、ビートルズも we can walk it out でも歌っているように一度しかないいのちのはかなさとその喪失の悲しみを想う思想は洋の東西を問わないことを痛感し、これをささやかながらヴァニタス思想を AI を利用して出力を試みたイメージを付加して、描いてみました。

自己紹介：アートと貨物列車、古楽バロック音楽、猫をこよなく愛すオタクです。

## ゴダール レクイエム ヤマグチ

西村延啓

先日亡くなられたジャン＝リュック・ゴダール監督へのささやかなレクイエムを通じて、死についての対話や生者への癒やしに繋がればと思い、作品を作りました。

自己紹介：山口県在住の映画好きです。

## rivers rebirth minerals

～リバーズ・リバース・ミネラルズ～

### 循環

#### みうらちえこ

今回、鈴木さんチームのみんなでお話しているときに、鈴木さんが今滞在されているスイスと日本で共通しているもののひとつに、「自死」があるというお話がありました。(わたしはこれを、『地球パスポートを自分で破り捨ててかえっていったひと』と呼んでいます。)

その理由のひとつに、「ひとりぼっち」「切り離された」「乖離(かいり)」という " 感覚 " も大きいと思います。まるで、世界から切り離された感覚。でも、本当にそうなのか。

まわりを見れば、人間との関わりだけではない、大きな世界の中にいることに気づきます。

今回は山口市中心部を流れる「ふしの川」の河川敷にあったものを中心にあつめたもので、つくってみました。

石、木、はっぱ、植物、鳥、人間。みんなこの地域の、同じものでできていて、それぞれ循環しあっている。

そうしてまた、同じ要素で新しいものが生まれている。

そんな、生活圏内の、「川 (rivers)」のまわりで静かに、だけど、ダイナミックに「ミクロの世界で循環する要素 (minerals)」が「再生 (rebirth)」している。

ほんの一部を、「ひと」と、「話さないけど、在るものたち」をつなぐ気持ちでつくってみました。

なにかの新しい気づきになるきっかけになれば、うれしいです。

自己紹介：とにかく散歩が大好きです。てきとうな気ままないきあたりばったりな散歩が好きすぎて、あらゆる概念と、偶然出会う現実のいろんな散歩を楽しんで今に至ります。見方を変えるだけで、現実はある姿に変幻自在に変化する、というのは本当かな？という実証実験を今はして、楽しんでます。お金はそれほどなくても、楽しい人生を送れてるかな・笑

普段はパートで働いていて、フリーランスでイラストレーターを始めたり、クリエイティブで無の概念から有の形にすることを楽しんで生きていきたいです。

石や植物や動物や空気や、人の作ったあらゆるものにも意志がある気がして、自然の中から人の見つけた「法則性」をほんの少し足すと、なにかしらの面白いものが出来上がるような気がしています。

生き方が下手すぎて、「なぜか、みんなとおなじで、足並みそろえて、きちりがパーフェクト、がふつうになってる」的なことが多い日常の常識の日本の世界でへこむこともかなりかなり多いですが、優しい人たちに会うことがとても多くて、ほんとにありがたいです！世の中は、優しさでできていると思っています。なんか人間として生きていけている気がします。

ありがとうございます^^！